

平成28年度 「大阪市統一テスト」における 大淀中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市統一テスト」について、平成28年10月6日(木)に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

1 テストの目的

- ① テスト結果を個々の生徒の評定(内申点)に活用し、平成29年度入学者大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- ② 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

2 テストの対象

- ・ 原則として、大阪市立中学校及び特別支援学校中学部の第3学年
- ・ 大淀中学校では、第3学年 96名

3 テストの内容

- ・ 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

平成28年度「大阪市中学校3年生統一テスト」検証シート

実施日 平成28年10月6日(木)

学校名	大淀中学校
-----	-------

生徒数(人)	96
--------	----

平均正答率（点）

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	68.5	56.7	64.3	56.7	67.3
大阪市	65.4	54.4	56.0	55.0	61.2

結果の概要

平均正答率を比較すると、本校における平均値は、国語(+3.1ポイント)、社会(+2.3ポイント)、数学(+8.3ポイント)、理科(+1.7ポイント)、英語(+6.1ポイント)と、5教科共に大阪市の平均値を上回っていることがわかる。特に数学、英語の2教科については大きく上回っているといえる。

また、領域・観点・問題別の分布を表すグラフからは、昨年度は記述問題での正答率が他のカテゴリーの問題の正答率に比べて低い値であったが、今年度は理科・英語において向上している。

成果と今後取り組むべき課題

「平成28年度大淀中学校教育改善アクションプラン」に掲げている言語活動の向上について、国語の「話すこと・聞くこと」の観点が向上していることから一定の成果が見られる。しかしながら、社会・理科の分布を見ると二極化していることから、「わかる」「できる」を大切にした授業に努め、「わからない」「わかりにくい」ことに応える指導にとりくんでいかなければならない。

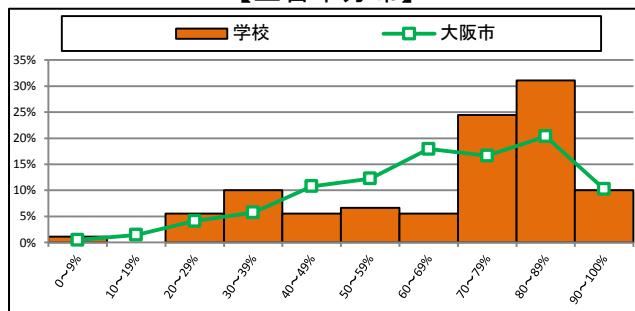
今年度はICT機器を導入した指導方法の工夫にも取り組んでいるが、生徒が主体的に授業に参加できるよう、指導方法の改善も行っていかなければならない。

英語では、今年度より3年生を対象に英検を実施したが、コミュニケーションおよびヒアリングの能力が向上している。次年度も引き続き、C-NETを有効に活用し、生徒のコミュニケーション能力の向上に努めていきたい。

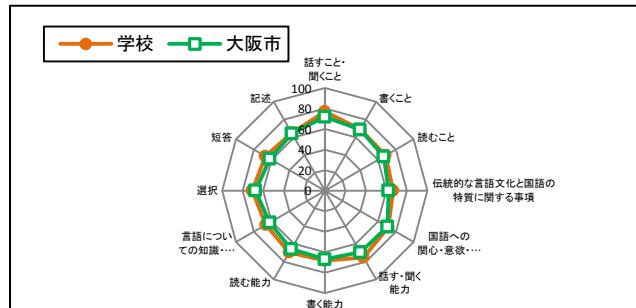
【各教科の正答率分布と領域・観点・問題形式別平均正答率の分布】

【国語】

【正答率分布】

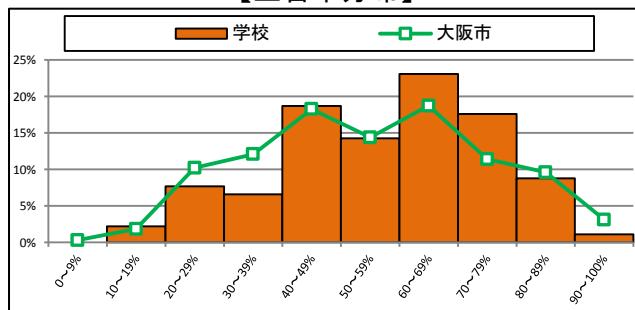


【領域・観点・問題別の分布】

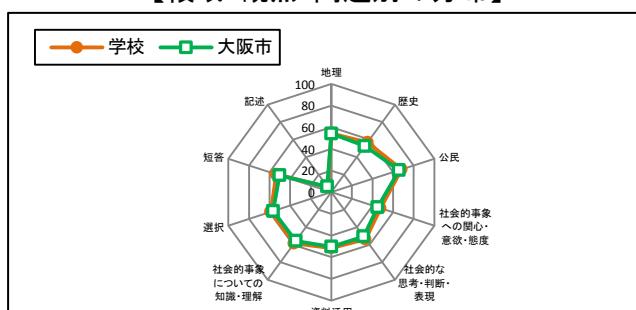


【社会】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

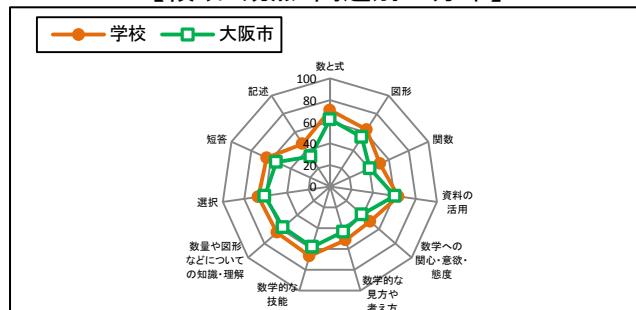


【数学】

【正答率分布】

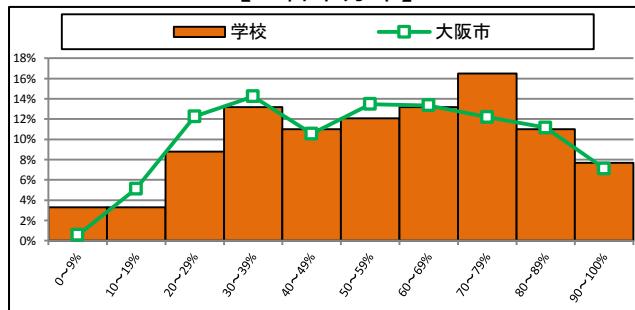


【領域・観点・問題別の分布】

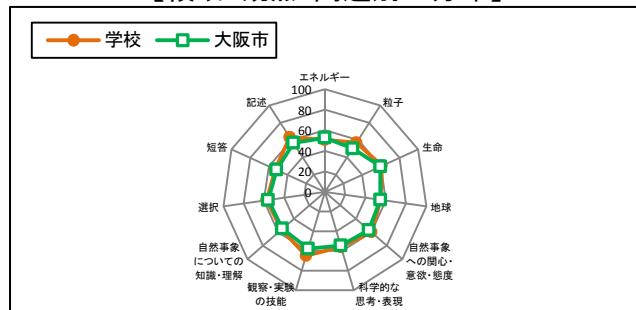


【理科】

【正答率分布】

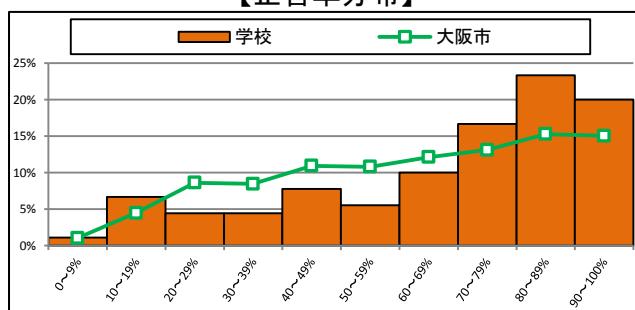


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

